

第1章

プランの 策定に あたって



Topicロビーのにぎわい

1

生涯学習とは



図書館の講座風景

多岐にわたる生涯学習活動

生涯学習とは、生涯のあらゆる時期、あらゆる場所において市民が主体的に行う学習活動のことをいいます。

生涯学習の範囲は、文化・芸術活動だけでなく、スポーツやレクリエーション活動、起業や就職のための学習活動、社会問題や地域課題の解決のための学習活動など幅広く、学習の形態も、読書や音楽鑑賞などの個人的活動はもちろん、公共機関が実施するものや民間のカルチャーセンター・スポーツクラブでの活動、仲間とのサークル活動など、多岐にわたります。

さらに、知識や技能の習得を意図したものだけでなく、家庭教育や学校教育、地域活動、ボランティア活動など、活動の中で自然と身につくものも生涯学習に含まれます。

2

生涯学習の必要性



Topicきらめき大学

社会の持続的発展を担う生涯学習

生涯にわたって学ぶことは、日常生活の楽しみや心の豊かさにつながるほか、人間関係の構築や視野を広げるなど、生活をより良いものにしていきます。加えて、学んだ成果を活かしてボランティアなどの市民活動や地域活動に参画することで、地域の課題解決や地域を豊かにすることにもつながり、社会の持続的発展に大きな役割を果たすことになります。

また、様々な社会環境が変化している中で、学校教育との連携や、環境や福祉、人権など現代的な課題を学ぶことの必要性が増しています。

3

生涯学習の理念

1

基本的人権としての理念



日本語よみかき教室(中央公民館)

学習する権利と生きる権利

現代社会の発展と個人の幸福を両立させていくために、学習が重要な権利の1つであることは、今日広く認められているところです。

昭和60（1985）年の第4回ユネスコ国際成人教育会議において採択された「学習権宣言」には、学習を「人間の生存にとって不可欠な手段」と位置づけ、「学習権は未来のためにとっておかれる文化的ぜいたく品ではない。それは、生存の欲求が満たされたあとに行使されるようなものではない。学習権は、人間の生存にとって不可欠な手段である。」と、私たちが平和で健やかに暮らしていくうえで欠かせない権利であり、基本的人権の一つであると提唱されました。

2 SDGsの理念



生涯学習にも取り入れるSDGs

SDGsは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された国際目標（Goals）です。世界の人々が将来にわたってより幸せに暮らせる持続可能な世界を実現するために、国際社会全体が取り組むべき目標です。

本市では、SDGsの要素を市政に取り入れ、市独自の取り組みを進めるため「富田林版SDGs取組方針」を定めるとともに、令和2（2020）年、本市が「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定されたことに伴い、①いのち輝く富田林の実現、②マルチパートナーシップによる増進型社会の実現、③地域資源を活かし繋ぐ魅力的で活力あふれるまちの実現に向けた取り組みを進めます。

SDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」を特に本プランの生涯学習の理念として位置づけます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





Topic 青少年委員会

一人ひとりの可能性を広げる学習

平成18（2006）年12月、教育基本法が昭和22（1947）年の制定以来、初めて改正され、第3条に生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に活かすことのできる社会の実現を図らなければならない。」と定められました。

さらに、教育基本法の改正に伴い、平成20（2008）年に第1期、平成25（2013）年に第2期、そして平成30（2018）年に現在の第3期教育振興基本計画が策定され、生涯学習に係る方針として、「人生100年時代」を見据えた生涯学習の推進、人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進、職業に必要な知識やスキルを、生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進、障がい者の生涯学習の推進が掲げられました。

また、『激動の時代を豊かに生き、未来を開拓する多様な人材を育成するためには、誰もが人間ならではの感性や創造性を発揮し、自らの「可能性」を最大化していくこと、そして誰もが身に付けた力を活かしてそれぞれの夢に向かって志を立てて頑張ることができるよう、「チャンス」を最大化していくことが必要』とされ、あらゆる世代が生涯にわたって一人ひとりの「可能性」と「チャンス」を最大化することを教育政策の中心に据えて取り組むものとされています。



Topic 若者シンポジウム



サークル活動(子ども食堂)

多様化する学習テーマと学習方法

生涯学習についてのニーズやテーマは、社会環境の変化により進展していくものであり、時代の変化をとらえて柔軟に対応していく必要があります。近年の社会のグローバル化やインターネット関連の技術革新と爆発的な普及により、産業・経済・雇用構造の変化や様々な社会システムの更新が進んでいることから、生涯学習の学習テーマやインターネットを活用した学習方法など、学習機会のニーズも多種多様化しています。

生涯にわたり活躍するための学習

人生100年時代を迎え健康寿命への関心が高まる中で、これまで趣味や教養といった側面が強調されてきた生涯学習は、現代的課題への対応など、社会生活に必要な新しい知識や技能を身につける学習も含めて考えられています。

また、子どもから高齢者まで、生涯にわたって活躍できるための学習活動は、特に若者が自立した社会の担い手となるよう、社会を生き抜く力をつけてもらうための学びの役割が求められます。さらに若者にとって、学習の場がいつも仲間のいる居場所としての役割が求められます。



Topicきらめき大学



小学生の図書館見学

生涯学習の新たな目標

人口減少や少子高齢化は、地域コミュニティの衰退、貧困や格差社会、災害への対応などの新たな地域課題となっていることから、人と人とのつながりや地域活動の再生・活性化に貢献する生涯学習の効果が期待されており、国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の国際目標であるSDGsが、生涯学習のひとつの理念として位置づけられています。

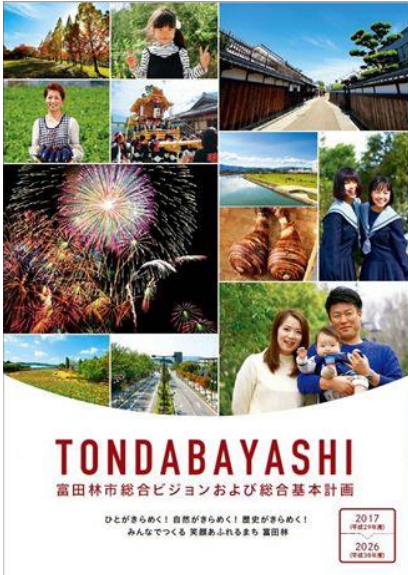
循環型学習と多様な学習主体

従来は、行政が生涯学習の環境づくりにおいて中心的な役割を担ってきましたが、講座の受講生が成果をインターネットで発信したり、地域などで講師となる循環型の学習形態や、NPOや市民活動団体による学習活動、大学や民間企業が社会貢献活動として学習機会を提供する場面が増えています。

地球環境や地域コミュニティの変化などにより、様々な感染症や災害の発生が危惧されています。令和2（2020）年からの新型コロナウイルス感染症拡大の教訓を活かし、生涯学習施設の使用が不能になった場合を想定し、インターネットを活用した学習機会の提供ができるよう、行政においては日頃からの技術取得と研修が求められます。

6

計画の目的と位置づけ



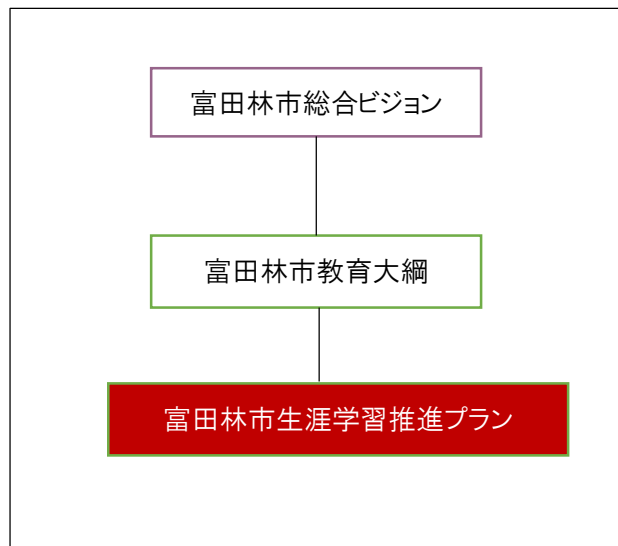
富田林市総合ビジョン

富田林市の将来像を実現させる！

本計画は、富田林市の将来像を描き、そのために必要なまちづくりの方向性を示した「富田林市総合ビジョン」の生涯学習に関する分野的施策として位置づけ、生涯学習施策の効果的な事業展開を行うことで富田林市の将来像を実現させることを目的とします。

また、本計画は、富田林市の教育がめざす基本的かつ総合的な構想を定めた「第2期富田林市教育大綱」に即するとともに、「富田林版SDGs取組方針」など本市個別計画・方針との整合性を図るものとします。

生涯学習推進プランの位置づけ



富田林市総合ビジョンにおける生涯学習

生涯学習の基本的な方向とめざすべき10年後の姿

(1) 未来の担い手の育成

● 基本的な方向

子ども・若者が心身ともに健やかに成長し、社会の一員として活躍できるよう、家庭・地域・学校・行政等の連携を深め、子ども・若者の居場所づくりや主体的な活動の促進を図ります。

● めざすべき10年後の姿

若者が地域でのさまざまな体験・交流の場へ参加することで、豊かな心や夢と希望を持ち、地域を支える新たな担い手やリーダーとなって活躍しています。また、ひきこもりやニートなど困難を抱える子ども・若者が、地域で気軽に相談でき支援を受けることができる場所があり、自立に向けた道が開かれたまちになっています。

(2) 生涯を通じた学びの推進

● 基本的な方向

市民の多様な学びに対するニーズに対応するとともに、指導者の育成や関係機関とのネットワークの充実により、誰もが学び、活かすことができる生涯学習環境づくりを推進します。

● めざすべき10年後の姿

市民が興味・関心のあるさまざまな分野で、活動や仲間づくりの場が提供されていることで、生涯を通じて楽しみながら学び続けています。また、学びを通じて得た知識や能力を活かし、市民が元気にさまざまな場面で活躍できるまちとなっています。

(3) 市民文化・スポーツの推進

● 基本的な方向

市民一人ひとりが、健康で充実した生活を送ることができるよう、文化・芸術にふれる機会やスポーツを楽しむ機会の充実を図るとともに、地域における文化・芸術活動やスポーツ活動を推進します。

● めざすべき10年後の姿

市民が日常の中で文化・芸術にふれる場があり、文化・芸術活動を通じた体験や交流に参加することで、心豊かで文化的な、質の高い生活を送っています。また、スポーツを通じて、人々との交流が深まり、市民がいきいきと暮らすことができるまちとなっています。

7

計画期間

本計画の計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とし、令和7（2025）年度に令和8（2026）年度以降分の計画を中間的に見直すものとします。



日本の道百選 富田林寺内町



移動図書館のつっじ号



中央公民館の講座



Topicイベント

第2章

富田林市 生涯学習の 現状と課題



文化財の歴史講座

1

富田林市の生涯学習の現状

プラン策定にあたり、本市の生涯学習の現状と課題を把握するため、市民アンケート調査を行いました。

■市民アンケート調査

1. 調査期間 令和2（2020）年8月1日～9月10日
2. 調査方法 郵送で依頼し回収
3. 調査対象 本市住民基本台帳に登録されている市民を対象に、18歳から29歳を全体の40%にあたるように設定したうえで、18歳以上の男女1,500名を無作為抽出
（市総合ビジョンの分野別施策「未来への希望を育む子育て・教育」個別施策4「未来の担い手の育成」（9ページ）に取り組むため）

■回収結果

回収数 541件 回収率 36.10%



2

市民アンケートの分析と今後の課題

1

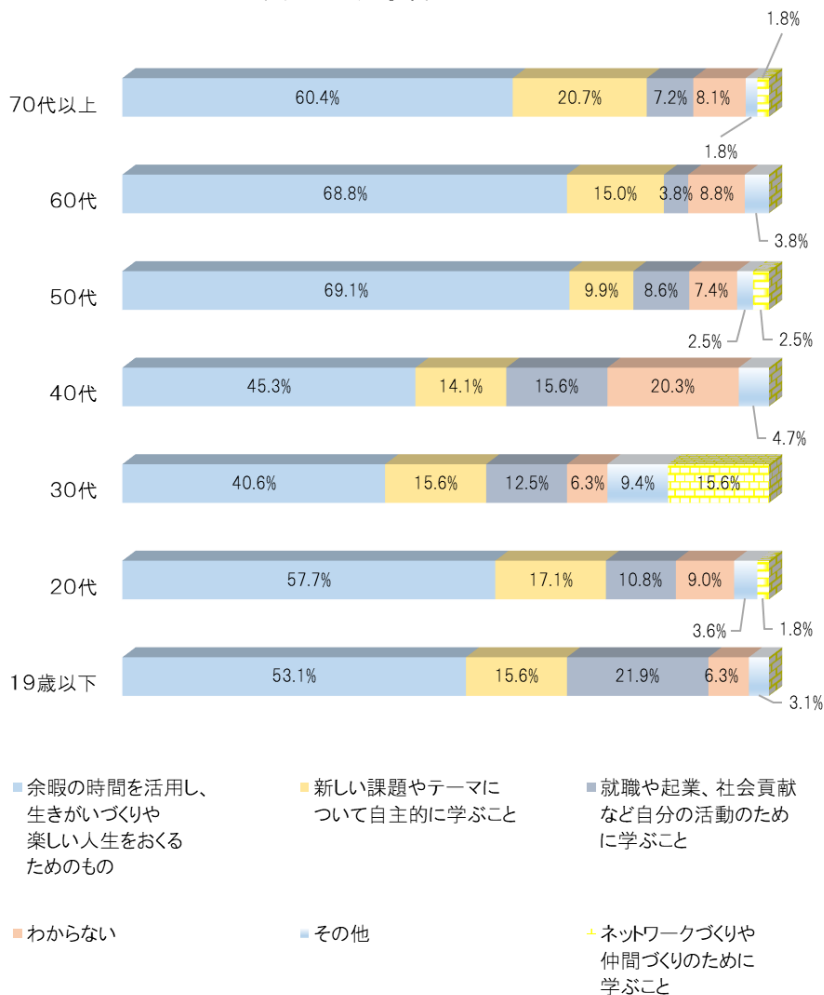
「生涯学習」という言葉のイメージから

【アンケート分析】

“生涯学習”という言葉のイメージは、多くの方が「余暇の時間を活用し、生きがいつくりや楽しい人生をおくるためのもの」と捉えており、すべての年代で同様の傾向が出ています。

また、「就職や起業・社会貢献など自分の活動のために学ぶこと」とイメージしている人は10代では21.9%であるのに対して、70代では7.2%となっており、年代別の特徴がもっとも顕著にあらわれています。

図1 生涯学習のイメージ



【見えてきた課題】

参加しやすい講座の開催日程に

多くの人が生涯学習のイメージを「余暇の時間を活用して」と捉えています。しかし、この「余暇の時間」は年代によって異なり、70代以上の人の多くは平日の昼間も余暇に入りますが、就労世代の大多数にとっては土日祝日や平日の夜間が主に余暇の時間と想定できます。大阪市内等で勤務した後に富田林へ帰って来て、午後6時開始の講座に参加するのは困難と思われることから、受講生が参加しやすいためには、土日祝日の講座開催が望まれます。



2 生涯学習施設の認知度

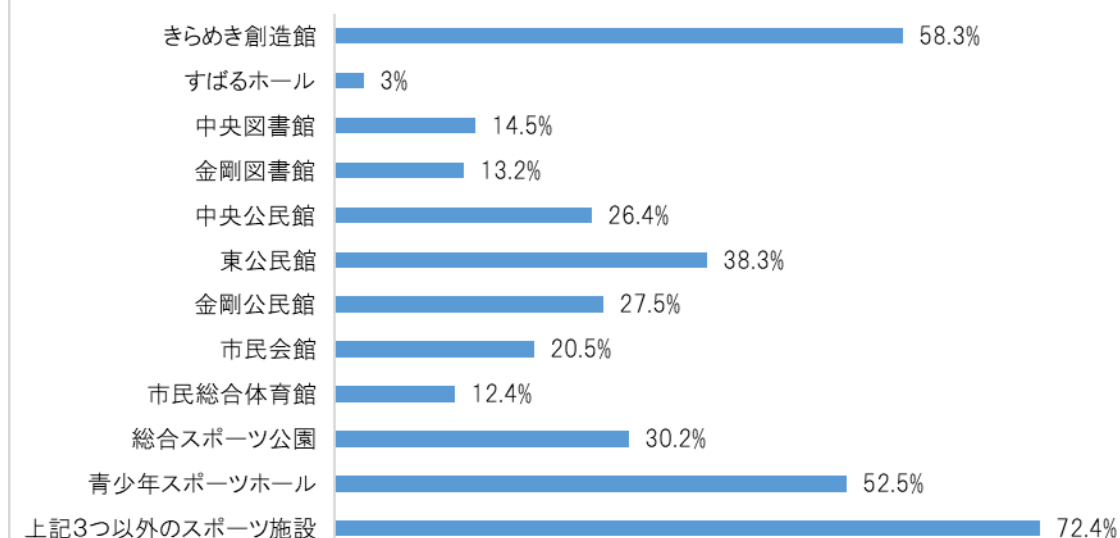
【アンケート分析】

施設の認知度に関しては、全体的に低いと言わざるを得ない数値となっています。きらめき創造館（Topic）の認知度は、開館4年目という歴史の浅さはあるにしても、「知らない」の回答が大半の地域で半数を超え、また、中央公民館と中央図書館、金剛公民館と金剛図書館はそれぞれ1つの施設の中に共存していますが、その認知度では大きな違いが生じています。

中央図書館を「知らない」と答えた人は14.5%、中央公民館を「知らない」と答えた人は26.4%で2倍近くの開きがあり、金剛図書館と金剛公民館においても同様の結果が見受けられます。

スポーツ施設の「知らない」の回答については、総合体育館は12.4%であるのに対して、青少年スポーツホールは52.5%と非常に高い数値となっています。

図2 市内各施設を知らないと回答した割合



【見えてきた課題】

「知らない施設」から「知っている施設」への転換を

施設の存在自体を「知らない」人が多く存在するという事実は、生涯学習の推進にとっては最も改善が必要な大きい課題です。施設そのものを知らなければ、施設で開催される講座等のPR記事を目にしても興味がわかないし、記憶にさえ残らないまま素通りして、到底足を運ぶところまで発展しません。施設を「知っている」ことが生涯学習に取り組む最低条件であり、「知らない」から「知っている」に転換してもらうためのきっかけ作りが肝要です。

遠くても“参加”できる学習に

Topicが金剛地域でほとんど知られていないのは、現状の課題であります。来館者の多くが中高生で移動範囲に限られることを考えるとやむをえない結果といえるかもしれません。そのため、生涯学習オンラインコンテンツ（教材）の配信や出前講座など各種講座に参加できる方策の検討が求められます。

次に、同じ建物の中にある図書館に行って本を借りている人が、公民館の存在を知らないのは残念なことと認識し、まずはそういう人に公民館の講座を「知って」もらうように働きかけていくことが有効と考えます。

また、青少年スポーツホールは、施設の利用率は体育館と同様に高い水準を保っているにも関わらず、知名度が金剛以外の地域で極端に低い点に関して課題であり、誰もが使える市立の公共施設として情報共有が必須と考えます。

課題解決のための施策・目標



第3章

基本施策 1

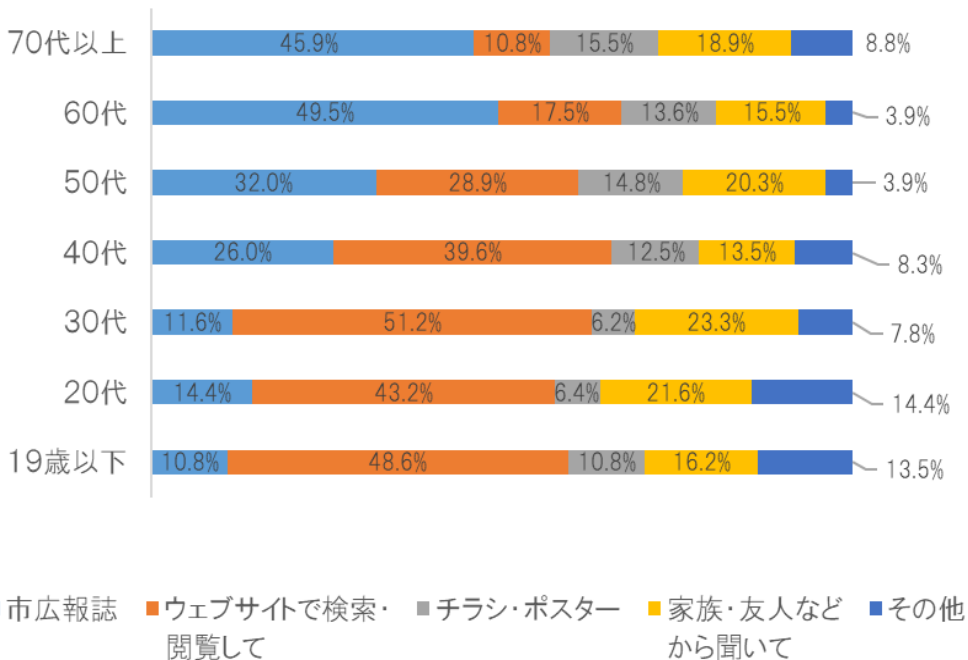
目標①

目標②

【アンケート分析】

情報の入手方法については、全体としてウェブサイトが市広報誌を上回る結果となり、特に10代から30代では約半数がインターネットによる情報入手となっていて、チラシやポスター等は低い数字となっています。

図3 生涯学習情報の入手方法



【見えてきた課題】

効果的な情報伝達を

生涯学習情報の入手方法は若い世代では、市の広報誌の3倍の数値をウェブサイトが占めています。令和2（2020）年度のスマートフォンの普及率（内閣府の消費動向調査）では、単身世帯では64.1%、2人以上世帯では84.4%と飛躍的な伸びを見せています。

生涯学習情報の入手方法としては、ウェブサイトはもちろん、ツイッターやインスタグラム、フェイスブックなどのSNSも含まれると考えられ、パソコンよりもスマートフォンで閲覧できるサイトでのPRが効果的と考えます。

一方で、数えきれないほどの情報があふれかえっているインターネットの世界で、実際に市の生涯学習情報をどのようにして閲覧してもらうかが最大の課題と言えます。そして、これを考える上で、大きく2つの状況を区別して取り組む必要があるでしょう。

1つ目は、何らかのまたは特定の目的を持って学習の情報を探している人を対象としたもの、2つ目は、地域のポスター掲示のように漠然としたPR効果を目的としたものです。

この2つは、全然別物と考えてもいいほど、コンテンツの内容やインターネット広告の手法などに歴然とした違いがあり、行政として不得意な分野ではありますが、今後はこれらのスキルを習得しインターネットの利点を最大限に活かせる情報を提供することが大きな課題となりそうです。

意欲ある30代への呼びかけを

また、生涯学習に対する意欲については、「積極的に学びたい」との回答率が最も高い傾向を見せているのは、実際に市主催の講座の参加率が高い60代以上だけではなく、30代の勤労世代でも高いことが注目されます（20ページ図7参照）。もちろん、この世代は仕事や家庭が多忙で生涯学習に割ける時間が少ないという前提のもとではありますが、それでも「積極的に学びたい」という意欲が他の世代よりも強い、ということは、主催者側がうまくリードすることができれば、生涯学習の世界に誘うことは不可能ではないと言える潜在的な層なのです。

では、そのためには行政はどういうアシストをすべきでしょうか。これもやはりインターネットの活用が最も効果的と考えます。時間がない勤労世代は、講座等の申し込みがインターネットで可能であったり、インターネット配信で受講できる講座があったり、訪れた施設で気軽にインターネットが使えたりすれば、その参加率は着実に向上が期待できるものと考えます。



公民館まつり



納涼のタベ(東公民館)

4

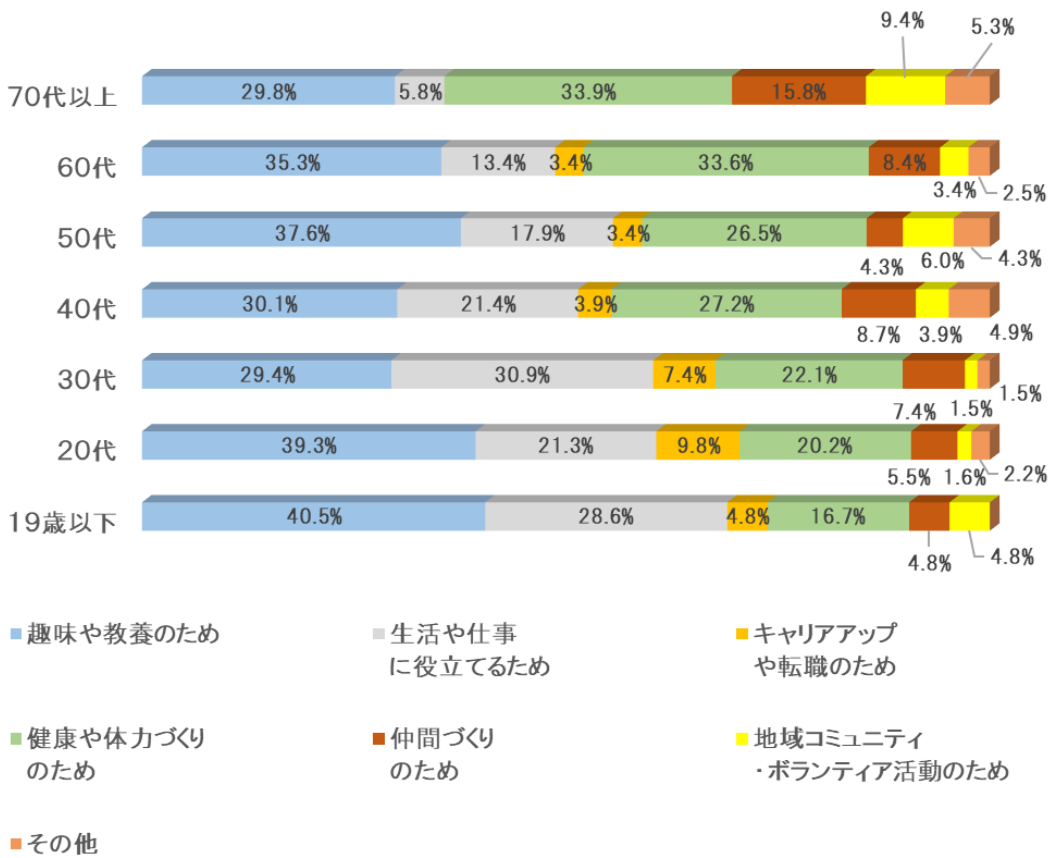
生涯学習の目的

【アンケート分析】

学習の目的については、「趣味や教養のため」が全世代において約30～40%を占めているほか、30代では「生活や仕事に役立てるため」が、60代以上では「健康や体力づくりのため」が多くなっています。

また、「仲間づくりのため」は70代以上だけが他の世代の2倍以上の数値となっており、「地域のコミュニティ活動やボランティア活動に活かすため」という回答は、20代や30代と比べて70代以上では多くなっています。

図4 生涯学習の目的

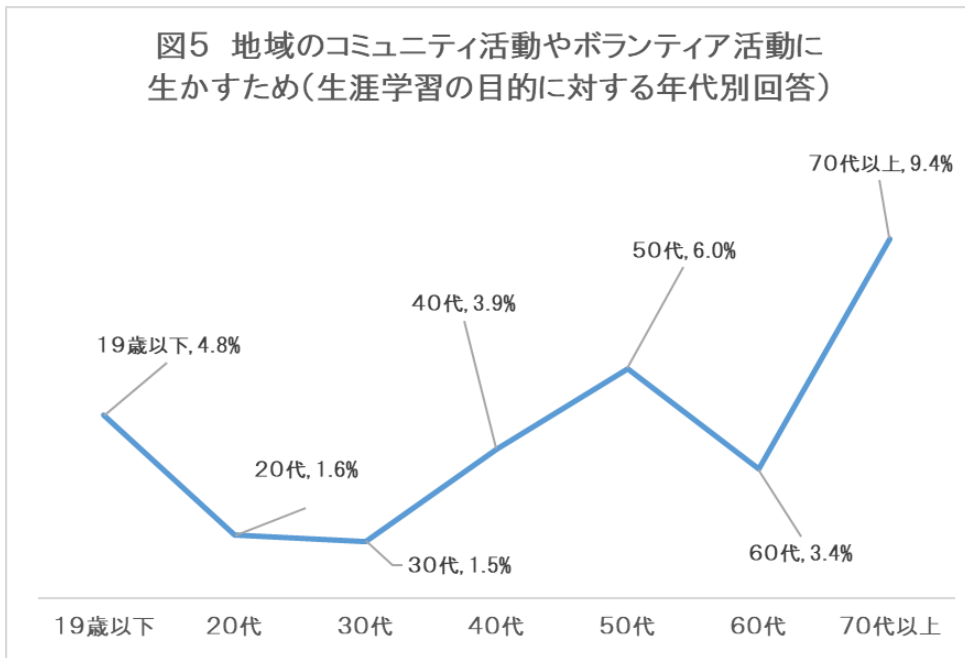


東公民館講座



市民マラソン大会

図5 地域のコミュニティ活動やボランティア活動に
生かすため(生涯学習の目的に対する年代別回答)



【見えてきた課題】

年代別のニーズに応じたテーマを

学習の目的の回答では、70代以上だけに顕著に表れている答えが「仲間づくりのため」と「地域のコミュニティ活動やボランティア活動に活かすため」の2つとなっています。

これは仕事を引退する年代となつて、そこからのいわゆる「地域デビュー」に向けての動向とみることができます。一般的に会社等を定年退職すると個人の日々の活動圏域が、家を中心とした「地域」に限定されることが多くなりがちです。そのため地域の人々との交流が社会活動として多くを占めることとなり、生活環境に関する様々な問題に直面する機会も増え、これまで以上に地域への関心が高まるものと推測されます。そこで必要とされるのは、「仲間」であり「コミュニティ」です。アンケート結果でも表れているように、興味の対象は従来の「企業」「仕事」から「介護」や「防災」に移行しています(23ページ図11参照)。高齢者になってようやく生活に密着した課題に改めて向き合うという人も多いことから、このようなテーマの講座等が望まれていると言えるかもしれません。

ただし、今後ますます高齢化が進行する中で、施設のバリアフリー化は早急に対応すべき課題です。



5

学習意欲と阻害要因

【アンケート分析】

生涯学習に対する意欲については全体の80%にあたる人が「学びたい」と答えています。

中でも「積極的に学びたい」という回答は、全世代の中で10代と30代が高く、40%を超えています。

図6 学びに関する積極性

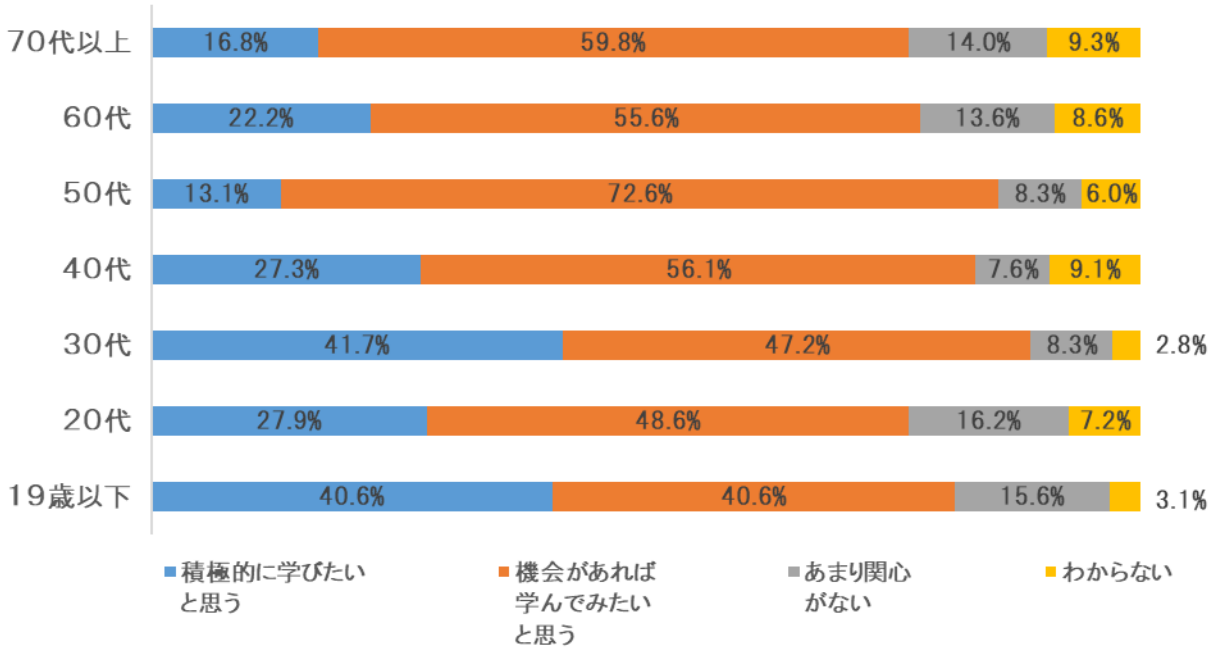
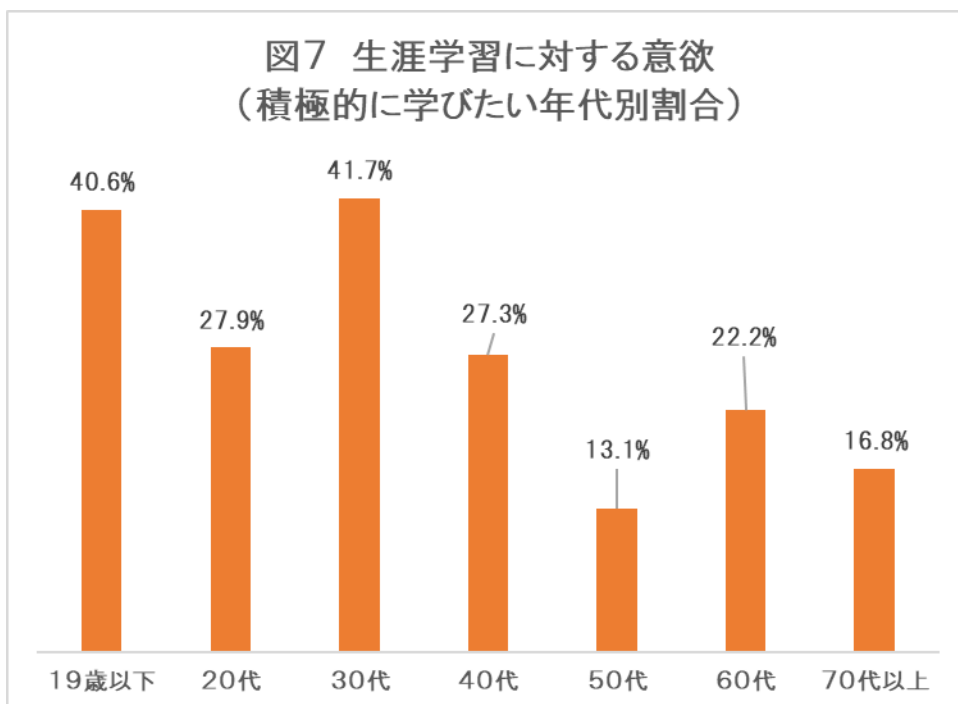


図7 生涯学習に対する意欲 (積極的に学びたい年代別割合)



学習を阻害する要因については、1位が「仕事が忙しくて時間がない」の20%、2位が「きっかけがつかめない」の16%となっていますが、年代別には50代で「積極的に学びたい」と思っている人の阻害要因として、「興味のある講座がない」が32%と突出した結果になっています。

図8 生涯学習における阻害要因

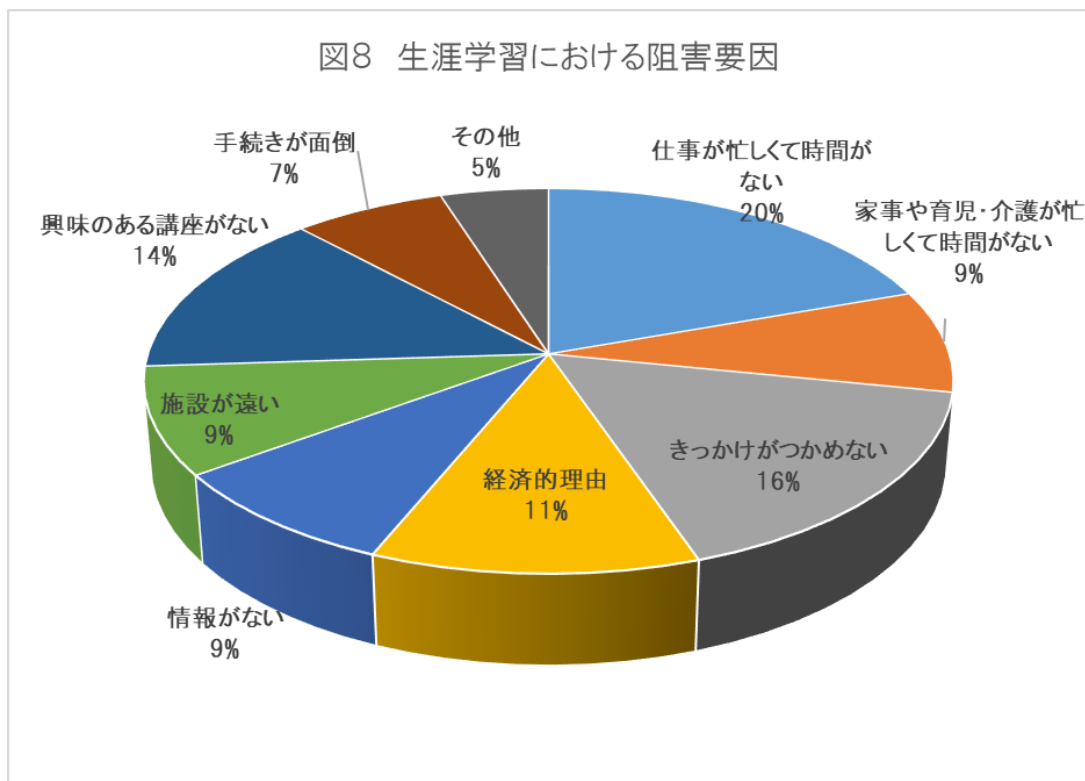
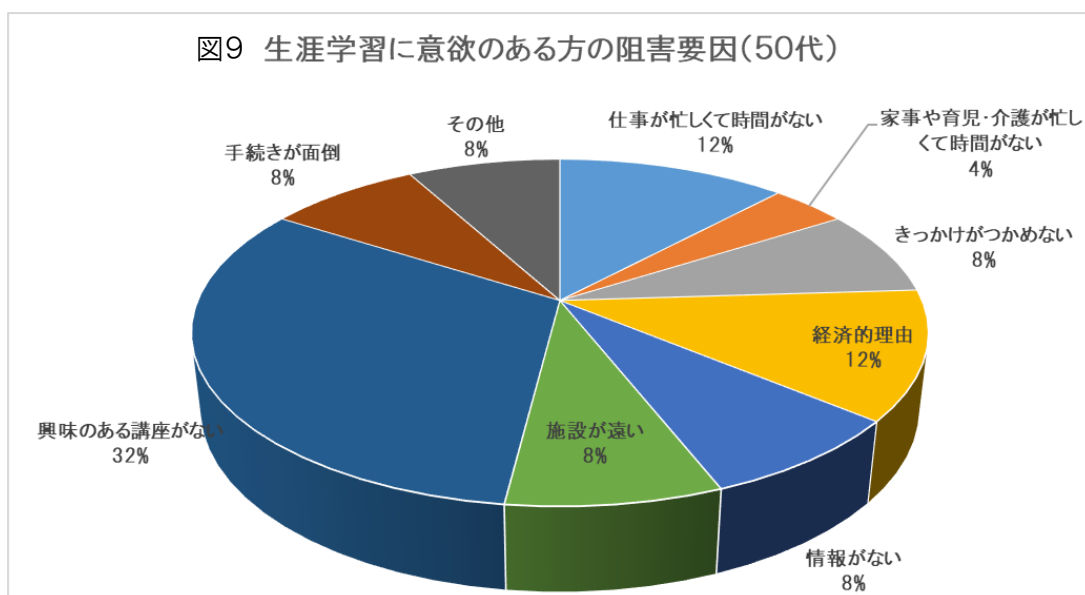
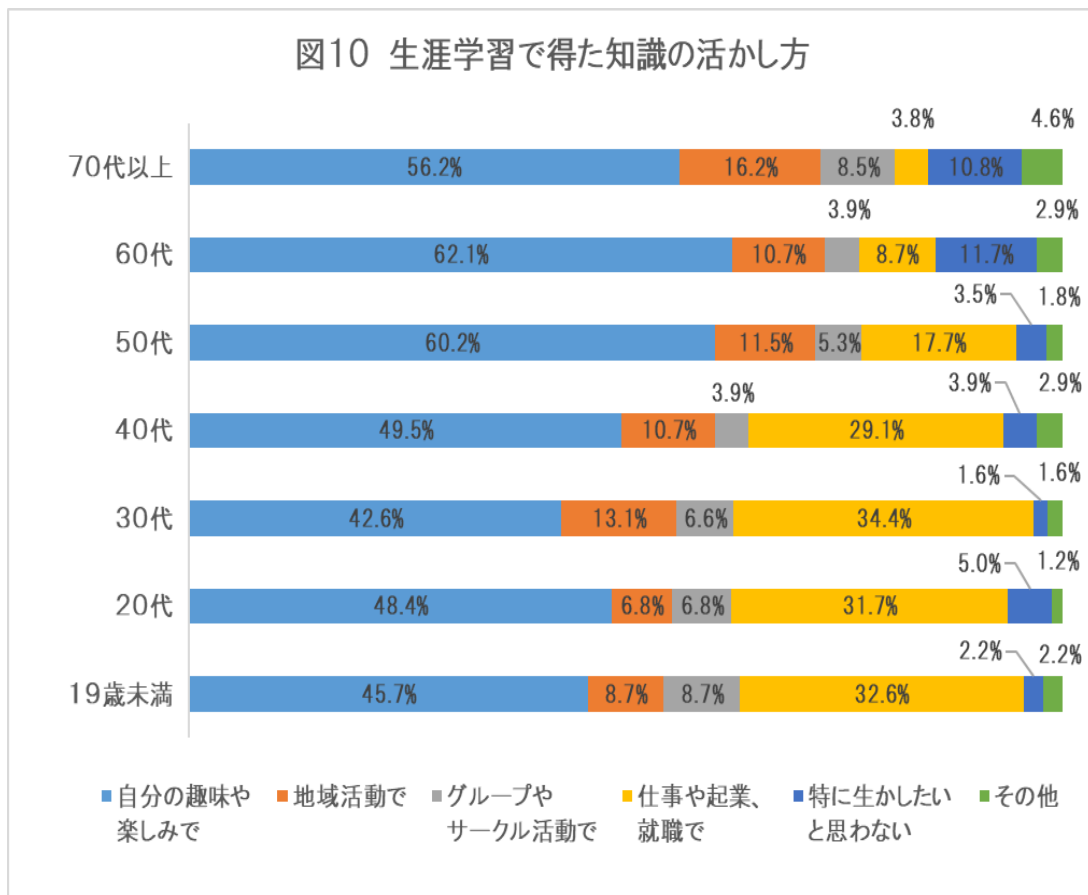


図9 生涯学習に意欲のある方の阻害要因(50代)



「学習で得た知識をどう活かしたいか」の回答では、「自分の趣味や楽しみで」が全ての世代で高い比率を占めていますが、70代以上では「地域活動で」という答えが他の世代よりも多くなっています。



「関心のある話題」については、各年代とも「健康や病気」が多く、40代以上では「災害や防災について」、「人間関係やコミュニケーションについて」が多く、10代～30代では「企業や仕事について」が高いという特徴があらわれています。また、「AIやインターネット関連」はどの年代でも高い関心が持たれています。

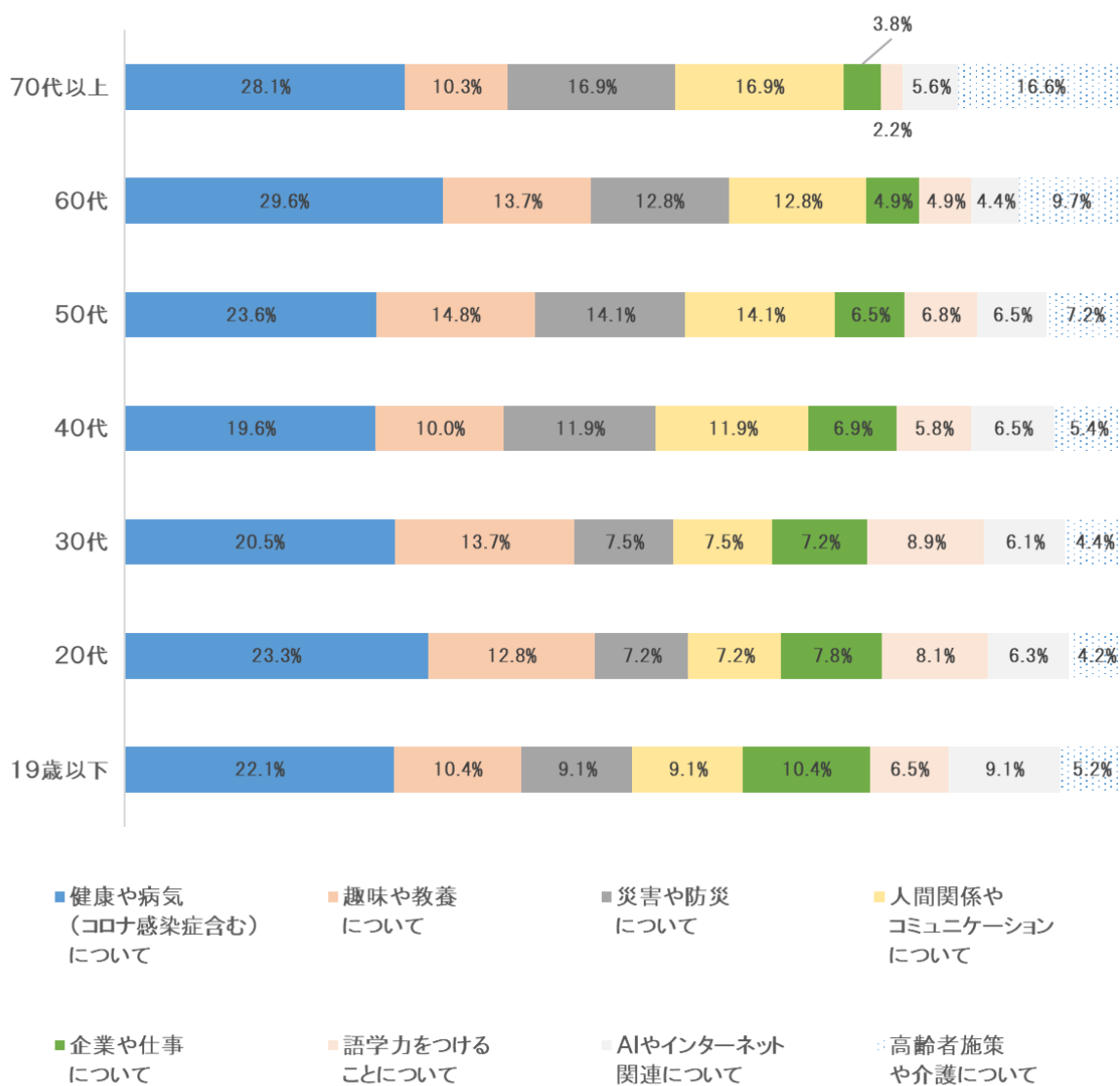


南大阪駅伝大会



Topicきらめき大学

図11 関心のある世の中の話題や社会問題



放課後子ども教室



Topicスタジオ

【見えてきた課題】

“忙しい”中での生涯学習の実践に向けて

阻害要因の第1位である「仕事や家事が忙しい」に対して、1つは行政から出向くこと、もう1つはインターネットによる配信が、時間の節約機能を満たし、一定の効果が期待できるものと考えます。

学習を阻害している要因の中で困難な課題となるのが、「施設が遠い」です。これはもちろん施設の利用目的や地域性と大きく関連する問題ではありますが、すべての地域に各種施設を設置することは不可能である限り、これに対応できる手法は上記の2つに集約されます。

インターネット配信による講座等については前述した通りですが、もちろんこれには「ライブ」での受講だけでなく、「録画」による個人の都合のいい時間での受講も含まれますし、片道受講もあれば、Zoomなどオンライン会議ツールを使用した双方向のコミュニケーションが可能な受講など、各種バラエティに富んだ講座の開催が考えられます。

「行政から出向く」タイプの講座としては、現在も町会や各種団体が主催する研修会等に職員が出向き、担当の業務に関して講義を行う「出前講座」を実施していますが、これをさらに発展させて通常各施設で行っている講座等を地域の集会所などで出張開催することにより、市民の学習機会がもっと充実するものと考えます。



第3章

富田林市 生涯学習 施策目標



Topic写真展

楽しく学びを探究

基本施策 1

学びの機会の提供と
市民の主体的な学びを支援

基本施策 2

持続可能な社会づくり
(SDGs の実現)

近年、医学の進歩や医療体制の充実などにより、私たちの平均寿命は著しく伸び、「**人生100年時代**」の到来が予測されています。

一方、社会情勢が目まぐるしく変化し、少子高齢化や人口減少、社会的孤立、格差の拡大など様々な社会問題が山積する中、令和2（2020）年からの新型コロナウイルス感染症拡大により、これまでに経験したことのない困難に見舞われ、社会全体が将来への希望を見出しにくい状況にあります。

このような中、人生を健康でより豊かに、生涯にわたって活躍し続けるためには、健康やスポーツなどに関心を持ちながら、様々な学びと体験が必要となってきます。人生100年時代は、単に長寿命化が進むだけでなく、アクティブな高齢者が一層増えるということを意味しています。

仕事を定年退職した後も働き続けたり、地域のボランティアや社会貢献活動に携わって活動する人が増えるものと考えます。

高齢になっても、知識を得、キャリアを積み、その経験や技能を次世代に伝えるとともに、社会活動を通じて人生を豊かにするための環境づくりが求められます。人々がこれらを共有することが「**持続可能な社会づくり**」になると考えます。

また、AIやICTなどの技術革新やグローバル化が飛躍的に進展する中、新しい世界を知り学ぶことは、人生のチャンスを最大化することにつながることから、より幅広い分野や最新のテーマについて学ぶ機会が求められます。



きっかけづくり



学ぶ楽しさ

生涯学習を めのテーマ

学びつづけるひと・まち富田林

基本施策 3

若者が輝ける社会を
めざして

基本施策 4

学びつづけるための
環境整備

人生をより豊かにするためには人生を通して主体的に学びつづけることが大切です。生涯学習とは、主体的に学ぶことであると考えます。

生涯学習の必要性は、市民が豊かな人生を送るためだけでなく、学びを通して多様な人々と関わり、地域課題の解決を図るうえでも、今後ますます重要となります。

生涯を通して学び続けていくには、学習テーマが興味深く、楽しく、充実感・達成感が持てるような内容にする必要があります。本市では、時代の潮流を見据え、市民の学習ニーズにあった多様な学びの機会を提供します。

また、少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの希薄化、まちの担い手の不足など様々な課題は、本市においても例外ではありません。

本市では、「誰一人として取り残さない」とするSDGsの理念を取り入れ、全国・全世界的なSDGsの実現に貢献するとともに、SDGsを共通言語として、多様な主体との連携・協働によるまちづくりを進めます。

全ての市民が、いつでもどこでも学びたいときに学ぶことができ、それを探究できる「**学びつづけるひと・まち富田林**」をめざし、本市生涯学習施策に取り組みます。



学びを活かす



学びをつなげる

学びの機会の提供と 市民の主体的な学びを支援

生涯学習に取り組みたいと思っている市民が多くいる反面、「きっかけがつかめない」と感じている人が多いです。

生涯学習を推進するためには、学習の阻害要因を認識し、学習しやすい環境をつくるための施策が求められます。

市民が主体的に学ぶためのきっかけづくりや学び直しの機会を提供し、支援していくことが必要です。



ひかりさんエピソード1

地元高校生のひかりさんは、富田林市の生涯学習施設Topicで「学生ボランティア募集」のポスターを見つけました。以前からボランティアに興味があったので、思い切って申し込むことにしました。



目標① 市民のニーズの把握と情報提供

市民の多様な学習ニーズを把握するとともに、現代的課題への対応など、新しい時代、社会に即した学習の提供が求められます。

本市には、市民が学習できる施設が多くあるにも関わらず、市民にあまり知られておらず、更なる有効活用が求められます。

そのため施設の概要や施設の利用方法、施設での事業内容など、市民への情報提供が必要です。

これからの主な取組

◆市民ニーズの把握と事業への反映

・技術革新やグローバル化など、社会環境が激しく変化する中、私たちの生活にこれまでなかったものや新たな課題が生まれています。アンケート調査などによって市民ニーズを把握し、諸課題解決に役立つ講座などを実施していきます。

・社会教育関係団体、施設利用者、有識者などで構成するそれぞれの委員会において意見を聴取し、事業に活かします。

◆様々な媒体による生涯学習情報の提供

・紙媒体（広報とんだばやし、公民館だよりなど）や電子媒体（市公式ウェブサイト、市総合Facebook、各施設のSNSなど）により随時情報発信するとともに、市内の大学等との生涯学習情報の相互交換や富田林テレビ（とんテレ）やケーブルテレビなど、公民連携をすすめ、様々なメディアによる発信を検討します。

・市民が講座やイベントの情報を入手しやすく、また申し込みや予約が簡単にできるよう、講座イベント申込システムの導入を検討します。

・外国人市民にもわかりやすい多言語、やさしい日本語での情報発信に取り組みます。



目標② いつでも・どこでも・誰でもできる学習の提供

市民の学習意欲は高いと思われるものの、仕事や家事、育児などで時間が取れない人や、施設が遠くて学ぶ機会を持っていない人がいます。

また、少子高齢化や世帯の少人数化が進み、地域におけるコミュニティ意識が低下していることから、オンライン学習など市民のニーズにあわせた配慮やサポートにより学び続けることができる施策が求められます。

これからの主な取組

◆学ぶ機会を充実

- ・時間的制約がある人に、動画視聴により家庭でも気軽に取り組める生涯学習のオンラインコンテンツ（教材）を順次作成し、配信します。
- ・施設が遠い点について、学習の場所を特定の施設に限定するのではなく、近くの公共施設で市民が受講できるよう出向く「出前講座」を実施し、また移動図書館などで本を受け取れるサービスを継続します。
- ・講座やイベントに、手話通訳者等を必要に応じて配置し、広報誌や公民館だよりなどでもお知らせします。
- ・朗読ボランティアなどの活動を支援し、また点字図書や障がいのある人の読書を支援する図書購入を継続します。

◆ライフステージ、ライフスタイルに応じた学びの提供

- ・土日祝日に講座やイベントを実施するなど、学習しやすい開催日、時間帯を検討します。
- ・講座によって託児教室を併設するなど、子育て世代の人でも気軽に学べるよう検討します。



目標③ 市民の自主的な学習活動を支援

市内で自主的に活動している文化団体やスポーツ団体、市民活動団体などを側面から支援するとともに、活動の成果を発表し仲間を広げていく取り組みが必要です。

また、学んだ知識を他者に伝えることは、これまでの学びを再確認することにつながり、教える側、教わる側双方に深い学びの効果が得られることから、積極的に発表の機会を設け、情報発信していくことが求められます。

これからの主な取組

◆市民の主体的な学習活動を応援

- ・これまでの活動の成果を発表するイベントや団体相互の交流など、市民の主体的な活動を奨励し、機会の提供などにより支援します。
- ・出前講座などにより、地域で行われる市民の学習を支援します。
- ・富田林まちかどミュージアム事業により、市民の創作意欲を高めるとともに、アート芸術文化への理解を深めます。
- ・生涯学習を行っている団体の自主性、自立性を高めるために、団体の活動を側面的に支援します。



金剛公民館講座



富田林まちかどミュージアム

持続可能な社会づくり (SDGsの実現)

新しい時代を迎え、あらゆる世代が学び続けることの重要性とともに、人生を豊かにするための生涯学習が欠かせないものとなっています。

AIなどIT技術の革新やグローバル化など、社会が急速に変化する中で、高度化・複雑化していく諸課題への対応、社会を生き抜く力があらゆる世代に求められており、生涯にわたって学び続けることが求められます。

また、地域を愛し、地域を担う人材を育成するなど、持続可能な社会を形成するために、学びを通じた「人づくり」「コミュニティづくり」が重要となっています。

SDGsの目標4「すべての人々に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」に基づき、すべての人々が夢と希望をもって、学ぶことにより知識と力を身につけることが求められます。



ひかりさんエピソード2

ひかりさんは、ボランティア養成講座に参加し、学校や年齢の異なるメンバーと関わる中で、学ぶことの楽しさを見出し、これまでよりも自分の考えを発言できるようになりました。

4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



目標① 多様な学習内容の提供と学びを広げる支援

市民のニーズにあった多様な学びの提供が重要です。学習で得られた知識・技術は、さらに他者に広げていくことで、教える側と教わる側双方の学びを深め、それぞれの成長を促すことにつながります。そうした循環型の学びと、学びの地域還元が求められます。

また、本市の恵まれた自然環境や地域の歴史・文化資産を活かし、後世に伝えていく取り組みが求められます。

これからの主な取組

◆多様な学びの提供

- ・現代的・社会的課題をテーマにした講座などを実施するとともに、受講生同士の交流を促進して自主的なサークル活動に発展するなど、市民の学習活動が継続するための支援を行います。

- ・市民の交流を促進し、富田林市の魅力を感じ、郷土愛(シビック・プライド)を育てる事業を促進します。

◆教え合い・学び合いを広げる取り組みを推進

- ・各種講座などで得られた知識や技術を活かし、教えあい、学びあう「学びの循環」をすすめて、人材の育成を図ります。

- ・自身の豊富な経験や専門的な知識・技能を社会のために活かしたいといった市民の皆さんの協力のもと、教え合い、学び合う機会の提供を行う公民館の「特技登録者制度」の活用を図ります。



文化財講座



文化財現地説明会



目標② 多様な事業主体と連携・SDGsの推進

まちづくりの主体である市民とともに、市民公益活動団体や民間企業など多様な主体が参画し、行政が支援するマルチパートナーシップの推進を図るとともに、SDGsの精神に則った持続可能な社会づくりが求められます。

地域の再生や活性化など、地域の様々な課題解決のため、行政および市民、団体、企業との連携による取り組みを促す学習機会が求められます。

これからの主な取組

◆持続可能な社会をめざした人材育成や様々な主体との連携

- ・地域課題の解決を図ることを目標とした市民企画講座など、地域の担い手となる「人づくり」を意識した事業の実施を検討します。
- ・公民連携を進め、各主体がそれぞれの強みを活かし適切に役割分担し、連携・協働することにより本市の生涯学習推進を図ります。
- ・外国人や障がい者、高齢者、子ども、女性など、すべての市民がだれでもいつでも学べる生涯学習を推進します。



スポーツ団体地域活動

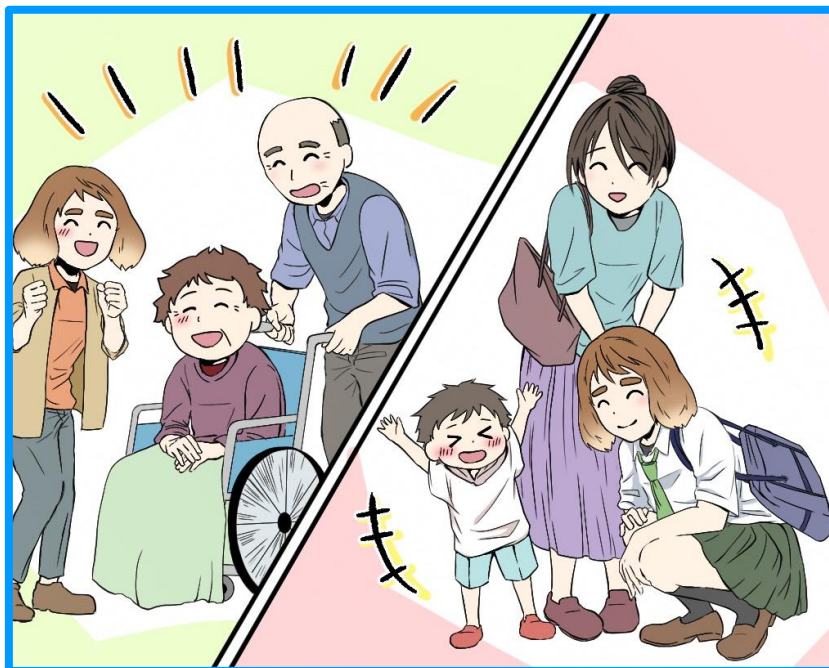


公民館講座館外活動

若者が輝ける社会をめざして

若者に対して、夢や希望、未来の担い手といった明るいイメージを抱く人は多く、地域を輝かせるためには、若者の活躍が必要不可欠です。

若者には未成年も多く含まれており、社会的な支援が他の世代に比べて受けにくい状況にあり、守られるべき存在です。学校や家庭だけでなく、地域を含めた社会全体で若者を支援していくことが求められます。



ひかりさんエピソード3

ボランティア養成講座を修了し、ひかりさんは仲間とともに地域の高齢者や乳幼児のお世話をするボランティア活動をはじめました。



目標① 若者の居場所の提供と困難を抱える若者の支援

若者にとって自宅でもなく学校でもない、自由で創造的で仲間がいる「第3の場所」としての居場所づくりが求められます。

居場所においては、気軽に相談ができたり、話し相手となるなど、若者に寄り添い、若者の自己実現を支援する専門のスタッフ(ユースワーカー)が必要です。

若者にとって、親・教師とのタテの関係、同世代の友人とのヨコの関係でもない、少し年上の先輩や地域の人たちとの「ナナメの関係」構築が支援のあり方として求められます。また、子どもの貧困や不登校・ひきこもりなど困難を抱えている若者とその家族を支援するための施策が必要です。

これからの主な取組

◆若者への居場所の提供

- ・ Topicに若者の育成を支援する専門のスタッフ（ロビースタッフ）を配置し、日常的に若者と交流することにより若者との関係性を構築します。
- ・ 学校や学年の違う若者同士をつなぎ、交流を促進し、また大学生が高校生や中学生に勉強を教えたり、話し相手になるなど、若者が気軽に集える居場所づくりを進めます。

◆困難を抱える若者への支援

- ・ ひきこもり当事者やその家族へのひきこもり相談を実施します。
- ・ ひきこもりに関するシンポジウムを開催し、情報提供や地域の民間支援団体との交流を促進します。また、ひきこもり当事者の自立に向けたはじめの一步事業を実施します。
- ・ NPOなど関係団体と連携・協力し、子どもの貧困に係る事業に取り組みます。



目標② 子ども・若者期における多様な学習を追究

社会や経済のグローバル化が進むとともに、AI、ICTなどの技術革新が目覚ましい中、産業構造の変化にあわせ社会を生き抜くための知識や技術を身につけることが求められます。また、情報化が急速に進展する中、若者が必要な情報を選択し、活用する能力を身につけることが求められます。

一方的に教わる教室形式の勉強から、ものの本質を見極め主体的に学びを追究する学習形態（アクティブラーニング）が多くの教育現場で取り入れられ、同時にコミュニケーション能力の向上が求められます。若者が自立し活躍するための知識や技能習得のための学習が求められます。

これからの主な取組

◆若者による多様な学びを支援

- ・生涯学習はあらゆる世代にとって必要なものであり、特に子ども・若者期において多くの知識・技術を身に着けることは将来の糧となり、人生のチャンス最大化することにつながります。
- ・若者が自由な発想を抱き、それを試せる・チャレンジできる機会を創出します。
- ・学びの多様化と学習形態が変容する中、若者が自ら主体的にパソコンなどを活用して情報発信（YouTubeなど）するといった新たな学びを創造することを支援します。
- ・学校教育と連携した学習活動に取り組みます。



ドリームフェスティバル



Topicきらめき大学

4 質の高い教育を
みんなに11 住み続けられる
まちづくりを17 パートナーシップで
目標を達成しよう

目標③ 若者の主体的な活動を推進

若者が自由に意見を述べることができ、夢や希望に向けてやりたいことに取り組むための学習や活動の機会が求められます。若者による主体的な活動はまちを元気にし、持続可能な社会を形成するためにも必要です。若者が大人をひっぱっていくような、若者が積極的に行政や地域に関わる仕組みづくりとその活動の支援が求められます。

これからの主な取組

◆若者が主体的に関わる事業の推進

- ・若者が将来の夢や希望を実現するための活動や、地域の課題に取り組む活動を支援するため、自由に意見を述べ、多様な人たちと交流連携する機会を提供します。
- ・富田林市若者条例※¹に基づく若者会議※²や、若者の自主的な参画・協働による活動での意見や提案を受け、その実現をめざすことで「若者が活躍できるまちづくり」を推進します。

※1 富田林市若者条例

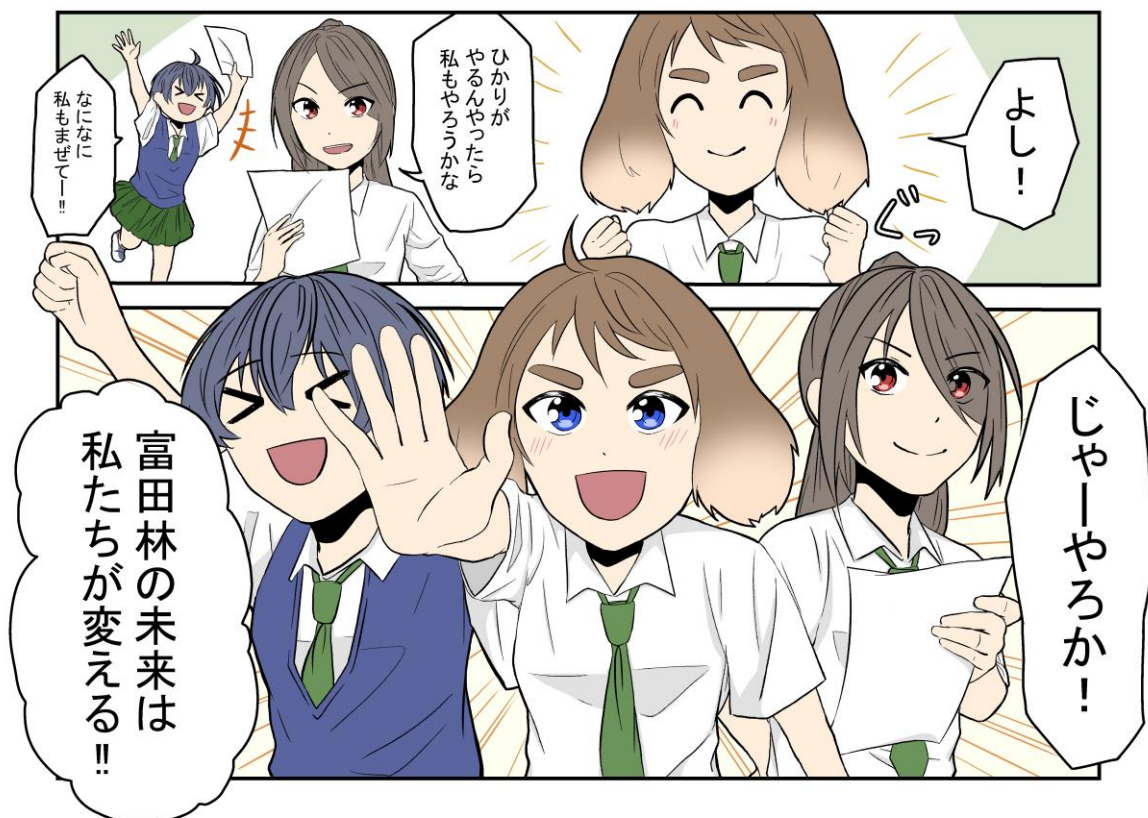
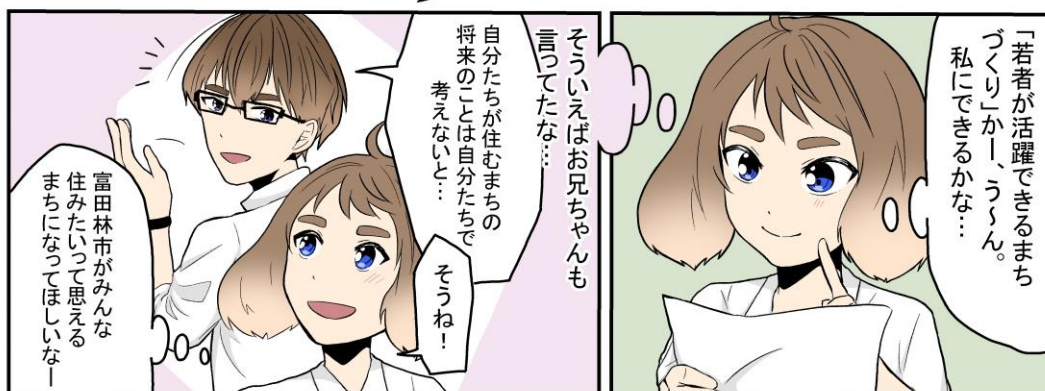
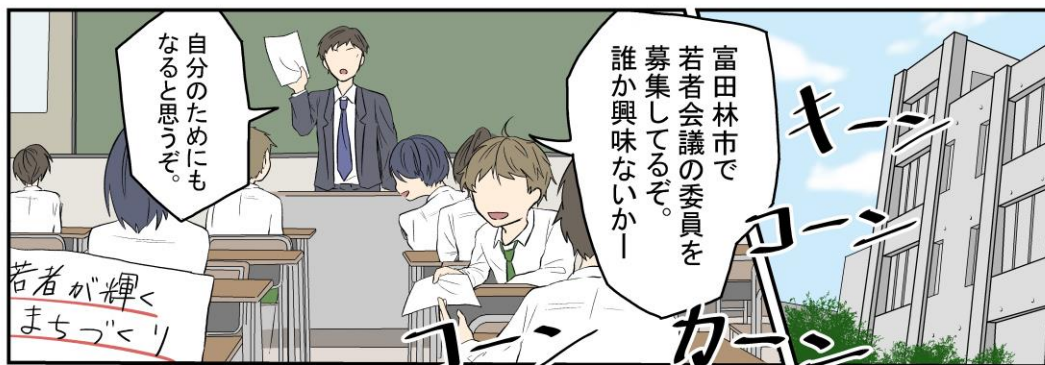
富田林市若者条例は、「希望・挑戦・未来」を合言葉に、若者が中心となり、みんなが希望を持てるまちの実現を目指して、地域課題の解決やまちの魅力創出に挑戦し、未来の富田林を「誰もが幸せで、安心して暮らせるまち」の実現を目的としています。

若者がやってみたいと思ったことを実現できるよう、「若者」をはじめ、地域で活動されている個人や市と協力する企業などを含む「市民等」と行政機関である「市」の三者が連携・協働のもと若者のまちづくりへの参画を後押しし、みんなが笑顔で暮らせる富田林市をめざします。

※2 若者会議

富田林市若者条例に基づき、若者が主体的に市政等に参加し、関わることで「若者が活躍できるまちづくり」を推進するものです。若者会議には、概ね16歳から30歳までの若者が参加し、富田林に必要な施策や取組など、まちづくり全般に関する事項について検討・協議し、その結果を「提案施策」として市長に報告します。報告を受けた市は、必要に応じて施策の策定、または財政上の措置を講じるものです。

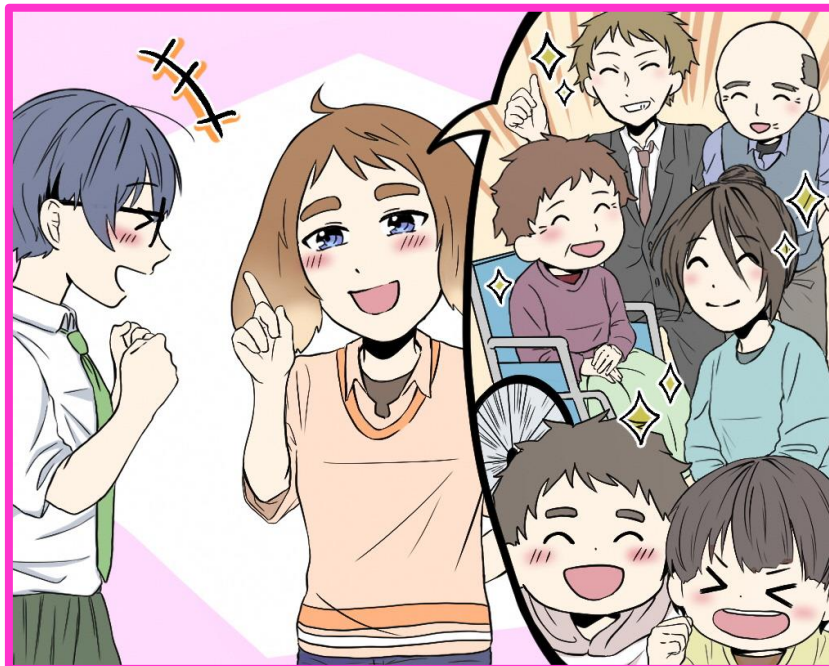
若者が輝くまちづくり



学びつづけるための環境整備

市民が主体的に取り組む学びが生涯学習であり、市民が学び続けるためにサポートするのが市の役割です。

あらゆる人々が気軽に、身近に、楽しみながら学ぶことができるように、市は生涯学習にかかる施設と事業実施体制を整え、本市の生涯学習を推進していくための環境整備を行います。



ひかりさんエピソード4

ひかりさんはボランティア活動をする中でいろんな人と出会い、経験を積み重ねました。今では、自分以外の人に教えるなど、主体的な生涯学習を実践しています。



目標① ICT（情報通信技術）の活用

近年、市民の生涯学習情報の取得手段が、紙媒体やウェブサイトの閲覧に加え、SNS（ソーシャルメディアネットワーク）が飛躍的に増加しています。また、Zoomなどオンライン会議ツールの使用により、遠く離れた場所の人々と画面を通して学習や交流ができたり、YouTubeなどの学習ツールを提供するなど、ICTの活用の必要性が増えています。

ICTが普及する中、市民がインターネットにアクセスできるWi-Fi環境の整備が生涯学習施設に求められており、ICTを活用し市民が生涯学習の情報を手軽に入手できるように、市民のニーズにあった生涯学習情報システムの構築が必要です。

これからの主な取組

◆ICTを活用した情報提供・事業企画

- ・市内の生涯学習施設および事業に関する情報提供を充実させ、市民の学ぶ機会を広げます。
- ・講座やイベントなどにおいて、ICTを活用した事業を進めるとともに、施設利用者がインターネットによる情報を取得できるよう、施設のインターネットサービス（Wi-Fi）環境を整備するなどデジタル化を進めます。
- ・図書館の蔵書検索・予約システムや公共施設予約システムを引き続き運用するとともに、市民が講座情報を一元的に入手、申込が可能となる講座申込システムの導入を検討します。
- ・オンラインで学べる機会の提供として、YouTubeなど動画コンテンツを充実します。



Topicきらめき大学



Topic若者シンポジウム



目標② 生涯学習施設の整備

市民アンケートではエレベーターの設置を望む意見が多く寄せられました。高齢者や障がい者などあらゆる人が不自由なく学習に取り組み、気軽に来える環境の整備が求められます。

一部の施設は、災害時の避難所としての役割も担っており、市民が安心・安全に利用できるための備えや環境整備が必要です。

これからの主な取組

◆快適に学習できる環境整備の促進

- ・施設内にエレベーターを設置するなど、市民の誰もが快適に生涯学習に取り組めるよう、環境整備に努めます。
- ・インターネット情報の取得や利用者交流のため、Wi-Fiなど施設の整備を進めます。
- ・老朽化により劣化した施設の改修や熱中症予防や空気の換気などを目的とした空調設備の更新を検討します。



Topic青少年委員会



Topicの仲間づくり



目標③ 施設の感染症対策 (新型コロナウイルス感染症のような不測の事態に対応)

令和2（2020）年、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態措置により、市の生涯学習施設が臨時休館となり、市民の利用ができなくなりました。

その経験を踏まえ、今後も、新型コロナウイルスのような突然の感染脅威に負けないための対策が求められます。市民の安全を第一にしつつ、学び続けるための施設の運用方法の検討が必要です。

これからの主な取組



◆オンラインを活用した情報発信

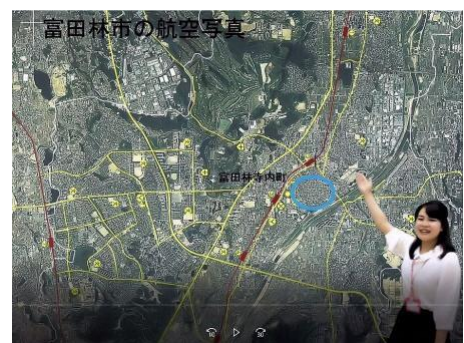
- ・ 図書のインターネット予約や講座申込、施設予約など、施設に出向かなくてもオンラインで申し込めるシステムの運用を充実します。
- ・ オンラインによる遠隔学習として、ICTを利用した動画配信やオンライン会議ツール（Zoomなど）の活用を進めます。

◆感染拡大防止のための施設管理

- ・ 各施設において、感染拡大が懸念される場合には、収容定員数の変更、利用時間の短縮、施設内の消毒・清掃、マスク着用を利用者に促すなどし、利用者のニーズを考慮しながら安全・安心な学習機会の提供に努めます。



Topic YouTubeチャンネル



生涯学習YouTubeチャンネル



目標④ 事業実施体制の整備

生涯学習の事業は、市の教育委員会だけでなく、市長部局や行政関係機関、大学などの教育機関、特定非営利活動法人（NPO）、民間企業など様々な事業者・団体において取り組まれています。

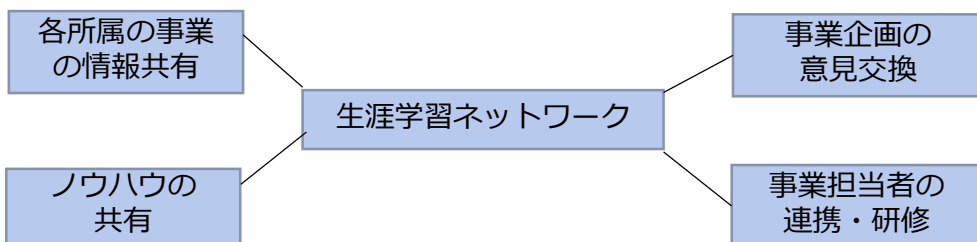
市民の多様なニーズに対応し、学習の機会を提供するには、生涯学習に関連する様々な主体が連携し、情報を共有するなど、共に富田市の生涯学習を推進していく体制づくりが必要です。

これからの主な取組

◆生涯学習のネットワークづくりと担当者交流の促進

- ・「生涯学習全庁ネットワーク」を創設し、各所属で取り組む予定の生涯学習講座など、各所属の事業に関する情報交換、情報の共有を行うことで効果的・効率的にすすめ、幅広いテーマ・内容の講座などを市民へ提供します。
- ・生涯学習担当者の研修、学習機会を充実させ、担当者の交流を促進します。
- ・市民の学習活動に関する相談やレファレンスサービスなど、施設に専門知識を有するスタッフを配置し、サービスを充実します。

生涯学習全庁ネットワークのイメージ



◆PDCAサイクル（業務の効率化をめざす方法）の確立

- ・事務事業評価制度を活用し、Plan→Do→Check→Actによる業務改善サイクルに基づいて効果を検証し、効率的・効果的な運営を図ります。

施設の特徴と今後の取組

本市の生涯学習を推進していくうえで、各施設の役割やコンセプトを明確にし、それぞれの施設の機能を強化することにより、多様化する市民の学習ニーズにこたえるとともに、利用者の利便性、使いやすさの向上を図る必要があります。

また、市民が行ってみたい、講座を受けてみたいと思うような取り組みや、多様な学習情報の提供をさらに進めていく必要があります。

※44～49ページには、生涯学習部所管の施設について掲載しています。



Topic青少年委員会

公民館

施設についての詳細は、右のQRコードを読み取り、アクセスしてください



社会教育の拠点として、地域に根ざした、地域に密着した学び・交流ができ、様々なライフステージに対応した学習を提供しています。

今後の取組

- ◆ 講座を通じて、市民が交流するとともに富田林の魅力を感じてもらえるような事業を展開し、今後は市内における市民交流（東西・南北市民交流）を重点的に進めます。
- ◆ 事業企画から市民が参加する市民参加型の講座を実施し、市民のまちへの愛着醸成、地域の人材育成を図ります。
- ◆ SNSを活用し、プッシュ型の情報発信を研究します。
- ◆ S D G s を意識した講座に取り組みます。



中央公民館



東公民館



東公民館講座



金剛公民館



金剛公民館講座



中央公民館演奏会

図書館

施設についての詳細は、右のQRコードを読み取り、アクセスしてください



地域において様々な知識を得る窓口である公共図書館として、多様な資料の収集提供と市民の読書活動や調べものの支援を行い、読書を通じて市民の様々な学習活動に役立てています。

今後の取組

◆本から様々な情報を得ることにより、個人の知識を広げ、新たな学びへの知的好奇心や欲求を満たしています。こうして得られた知識や情報は、地域での学習活動や地域の課題解決に寄与するものであり、図書館司書などによるレファレンスにより市民の学習を支援します。

◆平成29年度に策定した『第2次子ども読書活動推進計画』に基づいて、常に子どもものそばに本がある環境づくりをめざします。

◆近隣自治体等との広域相互利用を促進し、市民の利便性を向上します。

◆「読書手帖」を配布し、市民の読書活動の習慣化を促します。

◆乳幼児に絵本をプレゼントするブックスタート事業やおはなし会など本に親しむ事業を継続して行います。

◆学校図書館や学童クラブへの配本や出前講座など、館外活動を推進します。



中央図書館



金剛図書館



新刊コーナー



あかちゃんのほんだな



読書手帖

きらめき創造館 (Topic)

施設についての詳細は、右のQRコードを読み取り、アクセスしてください



若者の育成拠点、生涯学習の推進拠点として、若者をはじめとした市民に利用されています。

子ども・若者の居場所として、若者たちが集い、交流できる施設運営を行うとともに、市民の主体的な学びを支援する生涯学習講座を実施しています。

今後の取組

◆若者が主体的に事業の企画運営や館においてのルールなどを提案する「Topic青少年委員会」の活動を通じて、若者の成長を促します。

◆若者からの相談や学習支援、交流などを促進する専門のスタッフ（ロビーワーカー）を配置し、子ども・若者の居場所機能を充実します。

◆先進的な学習プログラムを実施するなど、若者が将来の夢や希望を抱くきっかけとなる事業を展開します。

◆多世代を対象とした市民の「学ぶきっかけ」「学び直し」となる講座を実施し、市民の自主的な学習活動を支援します。

◆富田林市若者条例に基づく若者会議を開催し、若者の提案を市政に反映させます。



きらめき創造館 (Topic)



Topicイベント



Topic講座



Topicイベント

スポーツ施設

施設についての詳細は、右のQRコードを読み取り、アクセスしてください



市民一人ひとりが健康で充実した生活を送るために、市内スポーツ施設で、スポーツを通じた健康増進、レクリエーション、交流など様々な活動が行われています。

今後の取組

- ◆市民の健康増進を目的に、積極的にスポーツ活動を奨励します。
- ◆「いつでも・どこでも・いつまでも」スポーツに親しめる機会の充実と環境づくりを進め、健康寿命の延伸を図ります。
- ◆子どもたちがスポーツに関心を持ち、スポーツの素晴らしさを感じ夢をはぐくめるよう、トップアスリートにふれる機会を提供します。
- ◆市民のスポーツを通じた仲間づくりや交流を促進します。
- ◆市民のスポーツ活動を広げ、多様な市民の参加となるようスポーツ活動団体の支援に取り組みます。
- ◆市内のスポーツ団体を育成し、市民体育大会や市民マラソン大会など各種団体委託事業を実施します。
- ◆ジュニアスポーツリーダースクールを開催し、子どもの自立心を養うとともに、地域のリーダーとなりうる人材を育成します。



市民総合体育館



総合スポーツ公園



青少年スポーツホール



市民プール「アクアパークきらめき」

文化財施設

施設についての詳細は、右のQRコードを読み取り、アクセスしてください



富田林市の歴史的風土や歴史資源を活かし、地域の文化財、歴史遺産の保護と活用を行っています。

今後の取組

◆大阪府で唯一の重要伝統的建造物群保存地区である「富田林寺内町」の町並みと景観を後世に残し、郷土の歴史にふれ、興味と理解を深めるための普及、啓発を行います。

◆保存と活用双方の観点から、市固有の歴史・文化やその魅力を市民と連携しながら、未来に向けて伝えていきます。

◆市民が郷土の歴史、魅力を再発見できる機会の充実を図り、本市文化財のデジタルアーカイブを進めるとともにウェブサイトやSNSなどによる情報発信を行います。

◆まち歩きボランティアなど、市民が主体的に本市の歴史的資源の魅力を紹介、活用する取り組みなどを支援します。



じないまち交流館



寺内町センター



じないまち展望広場



旧田中家住宅



旧杉山家住宅

文化施設・集会施設

施設についての詳細は、右のQRコードを読み取り、アクセスしてください

すばるホール

レインボーホール



市民が身近にふれることができる芸術性の高い文化事業を行うとともに、市民の自発的な活動を支援し、発表の機会を創出しています。また、生涯学習推進事業として、各種講座・イベントに取り組んでいます。

今後の取組

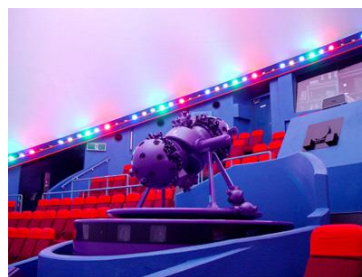
- ◆市民の主体的な活動を支援するとともに、市民参加型の事業を多く取り入れ、市内外に発信します。
- ◆市内の学校や地域に出向き、身近に文化芸術体験ができるアウトリーチ事業を充実します。
- ◆市民が集える場として、また練習や成果発表ができる場として、文化や芸術に親しむ機会の充実を図ります。
- ◆民間のカルチャースクールや企業内研修など、様々な形態の市民活動の場として利用を推進します。
- ◆全国でも有数、大阪府内で2番目の規模を誇る大型プラネタリウムを活用した天体や科学をテーマとした学習を推進します。(すばるホール)



すばるホール



レインボーホール（富田林市市民会館）



プラネタリウム(すばるホール)



ラジオ体操講座(レインボーホール)

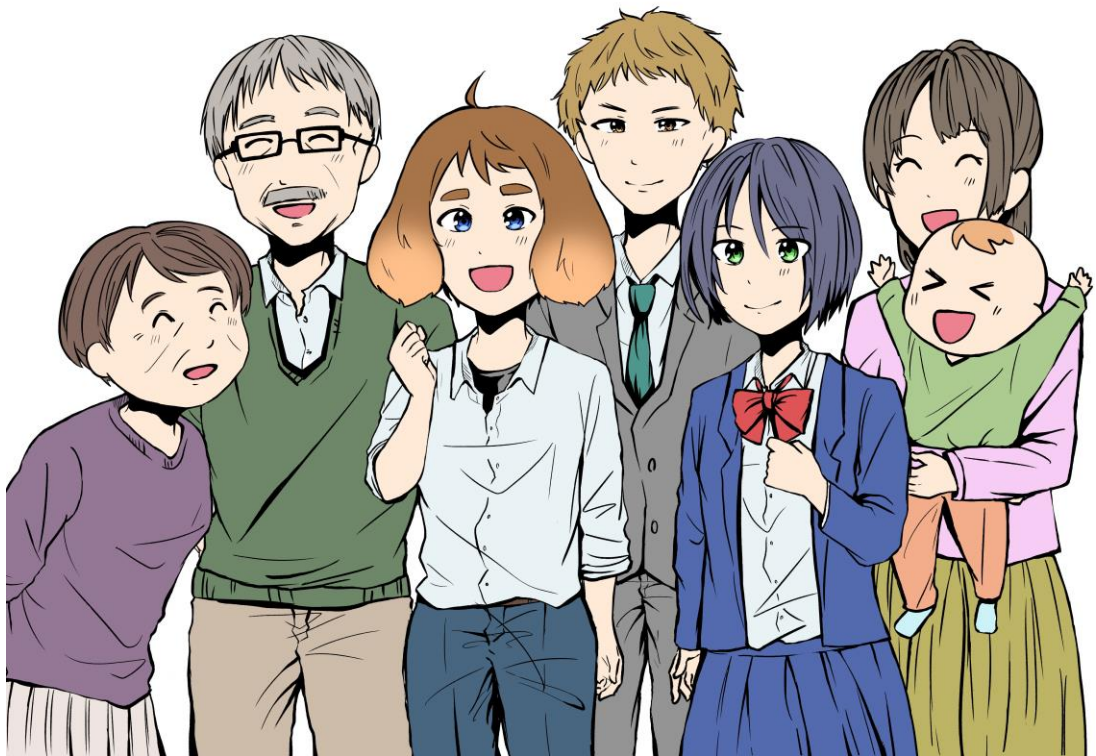
富田林市の生涯



学習施設マップ

施設種別	No.	施設名	住所	電話
生涯学習施設・ 社会教育施設	①	中央公民館	本町16-28	24-3333
	②	東公民館	山中田町1-5-50	25-1772
	③	金剛公民館	高辺台2-1-2	28-1121
	④	中央公民館喜志分館	粟ヶ池町2969-5	25-1117
	⑤	中央図書館	本町16-28	25-4921
	⑥	金剛図書館	高辺台2-1-2	28-1171
	⑦	中央図書館東分室	山中田町1-5-50	25-1781
	⑧	きらめき創造館 (Topic)	常盤町16-11	26-8056
スポーツ施設	⑨	市民総合体育館	美山台4-1	24-2265
	⑩	総合スポーツ公園	佐備2467-1	35-2121
	⑪	青少年スポーツホール	久野喜台2-2-2	29-3778
	⑫	アクアパークきらめき (市民プール)	桜ヶ丘町4-7	24-8801 開設期間のみ
文化施設・ 文化財施設	⑬	すばるホール	桜ヶ丘町2-8	25-0222
	⑭	埋蔵文化財センター	寿町1-3-5 市立 第一中学校内	—
	⑮	じないまち交流館	富田林町9-29	26-0110
	⑯	寺内町センター	富田林町15-4	23-6117
	⑰	じないまち展望広場	富田林町18-51	26-0110
	⑱	重要文化財旧杉山家住宅	富田林町14-31	23-6117
市民活動施設・ 集会施設	⑲	登録有形文化財旧田中家住宅	本町7-2	25-6771
	⑳	レインボーホール (市民会館)	粟ヶ池町2969-5	25-1117
	㉑	金剛連絡所ホール	寺池台1-9-15	—
	㉒	コミュニティセンター 「かがりの郷」	南大伴町4-4-1	20-6070
	㉓	人権文化センター	若松町1-9-12	24-0583
	㉔	男女共同参画センターウィズ	桜ヶ丘町2-8 (す ばるホール3F)	23-0030
福祉施設・ 子ども施設	㉕	市民公益活動支援センター	小金台2-5-10	26-7887
	㉖	保健センター	向陽台1-3-36	28-5520
	㉗	総合福祉会館	宮甲田町9-9	25-8261
	㉘	富田林市ケアセンター (けあぱる)	向陽台1-4-30	28-8600
観光施設	㉙	児童館	若松町1-7-47	25-0666
	㉚	富田林市農業公園 (サバーファーム)	甘南備2300	35-3500
	㉛	観光交流施設きらめきファク トリー	本町19-8	24-5500

市民アンケート基本集計



市民の声をきく